ネパール出身2人採用

特定技能ドライバー

FAS 免許取得から一貫支援

エフエーエス（FAS、内浪達也社長、香川県まんのう町）グループは9月、運輸部門でネパール人の特定技能ドライバーを採用する。また、7月21日に建設部門でインドネシア人の特定技能の大工を採用しており、今後は技能実習生も増員。即戦力としてだけでなく、長期的な成長を見据えて日本での生活や業務に適応できるよう、免許取得や研修、運行支援体制の整備など、段階的に育成していく。

（江藤和博）

FASグループはエフエーエスホールディングス（同）、事業会社のエフエーエス、戎急配（10月からエフエーエス岡山に社名変更、同社長、岡山県瀬戸内市）で構成。運送業を出発点に業務の裾野を広げ、現在の売上高比率は運送60%、建設と倉庫がそれぞれ15%、建設資材の仕入れ・販売など流通が10%で、ドライバーや大工、事務員、リフトマン、営業など幅広い職種を提供できるのが強みだ。

グループではこれまでも年齢、性別、国籍に関係なく多様な人材が活躍できる職場づくりに取り組んできた。6月には香川県の「かがわ女性キラサポ宣言」に賛同。女性が働きやすい職場づくりも推進し、グループ社員100人のうち女性が3割を占める。

LGBTQプラス（性的少数者）など多様な性の在り方を持つ社員も活躍しており、多様性推進の専門部署「にじいろ未来づくり推進課」は、社員のメンタルケアやキャリア支援、職場環境づくりを進めている。同課の主任は、経営者と社員の橋渡し役として、多様な社員が職場に溶け込んで十分な活躍ができるよう心身のケアを担っている。

意識改革を促す　多様な人材活躍へ

内浪社長㊨とにじいろ未来づくり推進課主任

今後は、LGBTQプラスの採用や外国人雇用に課題を抱える他企業への助言・支援などを行うため、労働者派遣事業やコンサルティング分野への展開も視野に入れている。

ネパール人の特定技能ドライバーは2人採用。即戦力ではないためゼロから育成し、日本の運転免許取得から独り立ちまで一貫して支援する。FASグループでは日本人ドライバーでも2カ月の同乗指導期間を設けているが、日本の交通法規や環境に不慣れなネパール人は6カ月に延ばし、独り立ちしても2トン車、4トン車からスタートさせる。

一方、建設部門では既にインドネシア人の技能実習生2人を雇用しているが、4人に増員し、特定技能の大工と合わせて5人体制にする。

女性や外国人など社員の多様化が進めば、周囲の理解と協力は不可欠だ。内浪社長は、朝礼などで「一人で全ての仕事をできる人はいない。同僚、部下、上司にかかわらず、周囲の全ての人にリスペクトを持って働こう」と強く訴え、意識改革を促している。外国人雇用については「一緒に働くことで日本人社員のキャリアアップや成長にもつながれば」と期待する。

FASグループは人材だけでなく働き方の多様化も進め、全国レベルで活躍した多種目競技の選手を雇用。例えば、元サッカー選手の社員は勤務時間を弾力的に設定し、地域のサッカージュニアチームの監督をしている。こうした取り組みに関連して23年からは、日本のトップクラスの選手が集まるソフトテニス大会「FASカップ」を主催するなど、地域貢献活動にも余念がない。

内浪氏は「副業を営む社員の相談に乗ってフォークリフトの資格を取らせ、グループの別部門で働いてもらって収入増を実現したケースもある。誰もが輝ける職場にするのがグループの目標。固定観念にこだわっていてはすぐに置いていかれる。社員や取引先から色んな意見を取り入れながら、『変われる強さ』を持った会社を目指したい」と強調する。